

# 日本の近代化を支えた小豆島産三角点

測量に使用される基準点（三角点・水準点の総称）は、国土地理院が日本全国に設置していますが、そのほとんどが小豆島産の花崗岩です。その理由は、小豆島産の花崗岩は見た目の美しさだけでなく、風化しにくく耐久性に優れているほか、石工の技術力も高いため、基準点には小豆島産を使用することが明治時代に定められたからです。そんな大切な基準点標石は、当情報館の眼前にある谷浴いの採石場から産出されているものです。

展示している三角点は一等三角点の柱石と盤石で、重量はあわせて約140kgあります。柱石下部や盤石は、当情報館のほかに「地図と測量の科学館（茨城県つくば市）」でご覧いただけます。

基準点を使用した測量は、建設工事等において、最初に実施されるため、小豆島の石が日本の近代化を支えていると言っても過言ではありません。

## 三角点・水準点の年譜

- 1869 (明治 2) 民部官に庶務司戸籍地図掛を設置 (測量や地図に関する最初の国家機関)
- 1875 (明治 8) 内務省が大三角測量事業を開始
- 1883 (明治16) 参謀本部が三角測量、水準測量を開始  
小豆島産花崗岩を使用した標石の製造を企画し、当時の土庄村長である香川石材店主に製造を依頼、小豆島での標石製造が始まる
- 1891 (明治24) 東京三宅坂参謀本部内に日本水準原点を設置  
零位標（水晶板）を収める正八角台石、船形台石に小豆島産花崗岩を使用
- 1896 (明治29) 陸地測量部が標石の品質・規格を統一するため、標石について合同調達をする目的で標石委員会を設け、小豆島産花崗岩を用いることになる
- 1900 (明治33) 一等三角点に下方盤石の埋設開始
- 1903 (明治36) 二・三等三角点に盤石埋設を規定
- 1915 (大正4) 一等三角測量が完了（明治成果）
- 1951 (昭和26) 国土調査法公布  
座標に基づく地籍調査が開始され、四等三角点を順次全国に設置
- 1975 (昭和50) 1883年より、およそ90年にわたり標石を製造してきた香川石材が廃業
- 2002 (平成14) 電子基準点網の全国整備が完了
- 2015 (平成27) 国土地理院から事実上最後の標石製造の発注をする
- 2016 (平成28) 1975年頃より標石の製造と保管業務を担ってきた四国石材有限会社が廃業

## 基準点のふるさと



## 現在も活躍する三角点

### 三等三角点「前ノ田」

1891（明治24）年に小豆島中央部四方指（しほうざし）に設置された三角点  
（当道の駅から車で約20分）



## 日本全国に設置されている小豆島の石

標石	構造法及石質	埋定年月日
小豆島産花崗石	小豆島産花崗石	明治三十四年八月廿五日
光螺旋	光螺旋	明治三十四年八月廿五日
埋定	埋定	明治三十四年八月廿五日

1911（明治44）年に沖縄島北部に設置され、現在も利用されている一等三角点「与那覇岳」の明治時代の「点の記※」には、「小豆島産花崗石を以て製し光螺旋の直下に埋定」と記録されている。

※ 基準点の所在や所有者、到達方法等の記録